

# 伊豆沼・内沼の野鳥保護活動

千葉 正 良

伊豆沼で野鳥保護の活動が始まったのは、昭和30年代後半の事でした。最初に保護に取り組んだのは、伊豆沼の近くにある迫町新田中学校の三人の生徒たちでした。

昭和38年新田中学校に愛鳥クラブができ、彼等の活動（白鳥の観察記録・その他の資料）が引き継がれ、現在は愛鳥委員会として全校的な取り組みとなっています。

続いて相沢幸四郎先生が中心となって昭和39年12月に「新田白鳥愛護会」を結成（会員22名）し、本格的な保護活動が始まりました。

当時、町民の野鳥保護への関心は低く、農作物に被害を受けていたので、農作物を荒らす鳥獣の保護をするなどのもつての外と、町民が逆に反撥・反感を抱く状況でした。

先生はこうした周囲の反対の声があっても自然保護の信念を曲げる事なく、愛護会を中心に保護活動を進めました。

愛護会の事業として、白鳥の餌付けをしている青森の小湊と新潟の瓢湖を観察し、給餌の方法などの指導を受け、水鳥を大事に扱う事を深く肝に銘じて帰りました。早速、餌付けの棧橋（約20m）を作り、朝と夕方の2回給餌をしましたが当時は殆ど白鳥は見むきもしない状況でした。3年目頃からは、餌に食いつくようになりました。吉川さんのお話では「白鳥は最初警戒心が強く、また、餌付けする人が変わると寄り難く、それで服装も最初に着たものを替えないこと」でした。それで相沢先生もそれを遵守して給餌をし、4年目頃から瓢湖と同じ様に、先生が棧橋に立つと白鳥と鴨が競って集まり、餌をついばむようになりました。餌付けの場所も唐木崎、彦道裏、浄土（内沼）と会員で分担し給餌をしました。

こうして、迫町の愛護活動が軌道に乗ったので先生は、若柳、築館両町の役場・教育委員会・公民館・農協などを尋ねて給餌への協力を要請し、努力を続けた結果、3町に愛護会が結成されました。3町（迫・若柳・築館）の愛護会連絡協議会を結成（昭和44年）し、毎年総会を開き、各町の情報の交換をし、懇親を兼ねて愛護会の発展を図ってきました。

「伊豆沼・内沼の鳥類及びその生息地」が国の天然記念物指定、国設の鳥獣保護区の指定、ラムサール条約指定登録など、現在は、世界の伊豆沼・内沼となったがその影には、相沢先生の並々ならぬ苦難の道のりがありました。水稲単作の典型的な農村の事、「カルガモによる水稲の食害をどうしてくれるんだ。人間と鳥でどっちが大切なんだ。」という怨嗟の音が喧々とおこり、白鳥愛護会の中心に立っている先生は全く身の縮まる毎日だったそうです。しかし、それをじっと我慢をし、堪え抜いたのは、固い意思と強い信念に支えられたからであると思います。

今日の伊豆沼・内沼が野鳥の楽園となった事は、相沢先生の努力の成果であると感謝しています。今後も私たち（白鳥・ガン愛護会）は、伊豆沼・内沼で白鳥やガンが悠々と暮らせる環境づくりに努力していきたいと思ひます。

---

迫町白鳥・ガン愛護会長

☎989-46 宮城県登米郡迫町新田字前沼92-7

# 白鳥類残留及び保護鳥一覧表

(平成5年まで)

日本白鳥の会調べ

年度別	河川湖沼名	都道府県名	ハクチョウ名	羽数	残留の原因
平成2年	浜頓別地区	北海道	コハクチョウ	1羽	保護→放鳥
3年	〃	〃	コハクチョウ	2羽	保護→放鳥
4年	〃	〃	オオハクチョウ	1羽	保護→放鳥
〃	〃	〃	コハクチョウ	8羽	保護→放鳥
5年	〃	〃	コハクチョウ	4羽	保護→放鳥
昭和58年	ウトナイ湖	北海道	オオハクチョウ	4羽	ケガ・架線事故
59年	〃	〃	オオハクチョウ	3羽	〃
60年	〃	〃	オオハクチョウ	4羽	〃
61年	〃	〃	オオハクチョウ	4羽	〃
62年	〃	〃	オオハクチョウ	4羽	〃
63年	〃	〃	オオハクチョウ	4羽	〃
平成元年	〃	〃	オオハクチョウ	5羽	〃
2年	〃	〃	オオハクチョウ	3羽	〃
平成4年	石狩川	北海道	オオハクチョウ	4羽	不明
5年	〃	〃	コハクチョウ	1羽	不明
昭和63年	宇曽利	青森県	オオハクチョウ	2羽	不明
平成元年	尾鮫沼	〃	オオハクチョウ	1羽	不明
2年	鷹架沼	〃	コブクチョウ	5羽	不明
4年	尾鮫沼・鷹架沼	〃	オオハクチョウ	3羽	不明、尾鮫沼1羽・鷹架沼2羽
5年	鷹架沼	〃	コブハクチョウ	2羽	不明
昭和60年	青森県内	青森県	オオハク・コハクの別不明	19羽	保護 7羽放鳥
61年	〃	〃	オオハク・コハクの別不明	17羽	保護 6羽放鳥
62年	〃	〃	オオハク・コハクの別不明	19羽	保護 6羽放鳥
63年	〃	〃	オオハク・コハクの別不明	10羽	保護 5羽放鳥
平成元年	〃	〃	オオハク・コハクの別不明	23羽	保護 7羽放鳥
2年	〃	〃	オオハク・コハクの別不明	26羽	保護 7羽放鳥
3年	〃	〃	オオハク・コハクの別不明	27羽	保護 11羽放鳥
4年	〃	〃	オオハク・コハクの別不明	30羽	保護 12羽放鳥
5年	〃	〃	オオハク・コハクの別不明	25羽	保護 7羽放鳥
昭和63年	新堤（北上市）	岩手県	オオハクチョウ	1羽	右羽外傷・架線事故
平成元年	〃	〃	オオハクチョウ	1羽	右羽外傷・架線事故
〃	和賀川（北上市）	〃	コハクチョウ	1羽	不明
2年	新堤	〃	オオハクチョウ	2羽	羽外傷
〃	和賀川	〃	コハクチョウ	1羽	不明
3年	新堤	〃	オオハクチョウ	2羽	羽外傷
4年	大堤（北上市）	〃	オオハクチョウ	2羽	羽外傷
5年	大堤	〃	オオハクチョウ	1羽	羽外傷
5年	和賀川	〃	オオハクチョウ	1羽	傘の柄刺さる

原因は架線事故により負傷したものが多い。それ以外の原因が記載されていない、羽、翼の骨折についても架線事故によるものと推測されるものが多い。

送電線および高圧線による事故と記載されたものについては、架線事故によるものに事故原因を統一した。

(平成6年分)

日本白鳥の会調べ

年度別	河川湖沼名	都道府県名	ハクチョウ名	羽数	残留の原因
平成6年	浜頓別地区	北海道	コハクチョウ	2羽	保護→1羽放鳥・1羽残留
〃	声間大沼(稚内市)	〃	オオハクチョウ	1羽	不明・残留
〃	ウトナイ湖	〃	オオハクチョウ	8羽	翼の骨折・架線事故
〃	〃	〃	コハクチョウ	1羽	翼の骨折・他地域から搬入
〃	苫小牧川と有珠川の合流点付近	〃	オオハクチョウ	2羽	左羽のケガ
〃	石狩川	〃	オオハクチョウ	7羽	2羽片羽骨折・他は不明
〃	〃	〃	コハクチョウ	2羽	不明
〃	鷹架沼	青森県	コブハクチョウ	4羽	不明
〃	田名部川	〃	コハクチョウ	1羽	不明
〃	青森県内	〃	コハクチョウ	1羽	片羽損傷・架線事故
〃	〃	〃	オオハクチョウ	9羽	片羽損傷・架線事故
〃	和賀川	岩手県	オオハクチョウ	1羽	傘の柄刺さる
〃	笹間沼	〃	コハクチョウ	1羽	不明
〃	磐井川(一関市)	〃	オオハクチョウ	1羽	架線事故
〃	伊豆沼	宮城県	オオハクチョウ	5羽	片羽骨折・架線事故
〃	〃	〃	コハクチョウ	3羽	〃
〃	内沼	〃	オオハクチョウ	2羽	〃
〃	〃	〃	コハクチョウ	1羽	外傷無・3年以上残留
〃	迫川(迫町)	〃	オオハクチョウ	1羽	片羽骨折・架線事故
〃	〃	〃	コブハクチョウ	2羽	〃
〃	白石川(大河原町)	〃	オオハクチョウ	1羽	左羽切断(3年残留)
〃	鮫川(いわき市)	福島県	種不明	1羽	右羽損傷(推定4才)
〃	〃	〃	種不明	1羽	体が小さく体力の消耗が原因か(推定1才)
〃	猪苗代湖	〃	コハクチョウ	3羽	両羽切断・架線事故
〃	〃	〃	コハクチョウ	1羽	両羽骨折・架線事故
〃	〃	〃	コハクチョウ	2羽	右羽切断・架線事故
〃	〃	〃	コハクチョウ	4羽	右羽骨折・架線事故
〃	〃	〃	コハクチョウ	4羽	左羽切断・架線事故
〃	〃	〃	コハクチョウ	3羽	左羽骨折・架線事故
〃	最上川下流(遊部部ゆするべ地区)	山形県	オオハクチョウ	2羽	翼の骨折・架線事故
〃	〃	〃	コハクチョウ	2羽	翼の骨折・架線事故
〃	酒田市 新井田川と幸福川の合流地点	〃	オオハクチョウ	1羽	体力の消耗?
〃	〃	〃	オオハクチョウ	1羽	翼の骨折
〃	酒田市と遊佐町の境界を流れる日向川	〃	オオハクチョウ	1羽	翼の骨折
〃	邑知潟	石川県	種記載なし	2羽	羽負傷
〃	〃	〃	〃	2羽	幼鳥・迷子
〃	大池(新潟県岩船郡神林村北新保)	新潟県	コハクチョウ	2羽	1羽はケガと思われる

※平成6年における残留鳥は88羽。架線事故により負傷した鳥は53羽である。

架線事故により負傷した鳥の割合は、残留鳥全体の60.2%である。

猪苗代湖のハクチョウは、100m以上飛ぶのは不可能である。

送電線および高圧線による事故と記載されたものについては、「架線事故」に事故原因を統一した。

原因は架線事故により負傷したものが多し。それ以外の原因が記載されていない、羽、翼の骨折についても架線事故によるものと推察されるものが多い。